

講演会・全体会午前の部

司会者(d・t) ただ今より、講演会ならびに全体会午前の部を行いたいと思います。午前の部の司会を担当させていただきます板野中学校3年d、板野中学校3年tです。よろしくお願いします。

それでは、早速講演会に移りたいと思います。パネリストは、この中学生集会のOB・OGである、シンジさん、はなちゃんです。コーディネーターは吉成正士さんです。どうぞ、よろしくお願いします。



吉成 こんにちは。よろしくお願いします。見てもらって分かるように、はなちゃんが今日は欠席なんです。昨日朝に連絡が来て、39.7°。陰性ならなんとか熱を下げてでもってという連絡があったんですけど、検査にすら行けてないっていう状態で、今日は家でうなっているっていう状況です。ですから楽しみにしてくれた人もおったかなと思うんですけど。大麻中の人とかね。残念ながら今日は欠席となります。ということで今日は、私吉成と、シンジくん二人での、これから約1時間の話をみなさんに聴いてもらうことになります。

実ははなちゃんとシンジくんについては、去年の2月とかそれぐらいの時期に、私、八万中学校なんですけど、八万中学校に話をしに来てもらいました。二人ともこの会

のOG、OBとして育っていったメンバーです。話をしに来てって言うと、快く引き受けてくれたので、八万中学校で、二学年ですから400人ぐらいかな。話をしてもらいました。そのときの新聞記事を実行委員会のなかで見てもらった方もおいでるかもしれないんですけど、今日はそのときの中身などについても話をしてもらおうと思っています。

前に看板があるんですけど見えますか。これ何だか分かりますかね。水平社宣言いけますか。この館がリニューアルされる前は、この左側の壁面に掲げられていたんですよ。ここがリニューアルされて以降ね、これが置かれたような状態で倉庫にあったんです。これすごく綺麗きれいにできてるでしょ。もったいないなと思ってずっと見てたんですけど、そういや今日せっかくの機会なんだから前に出してみんなに見てもらったらいいなと思って引っ張り出してみました。この水平社宣言がつくられて、発表されて、今年でちょうど100年なんです。今年が2022年ですから、つまり100年前、1922年に、この水平社宣言が発表されました。それをもとにして、水平社っていう組織ができあがっていったんですけど、何の組織かっていうことについては、3年生の人はもしかしたら分かるかな。けど2年生、1年生の人はもしかしたらまだ学習してないかもしれないと思うんですけど。部落差別をなくそうっていうのでつくられました。水平社っていう組織がね。主には部落の人たちがメインでつくった会なんですけども、自分たちに向けられた部落差別を自らの手で、自分たちの手でなくしていこうっていうので立ちあがったのが1922年だったわけです。

それから100年。100年経って、100年かかって、果たして部落差別はなくなったのかどうか。このことについては学習している人もいるかもしれないし、まだ学習してな

いなくてという人もいるかもしれません。このあとのいろんな話し合いの中でそんな話も聴いてもらえたらと思うし、よければみなさんの中からね、特に午後からの討議の中で、みなさんの方からも話を出してくれるといいかなと思います。



実は100年経ったということで、記念映画が上映されてるんです、今。記念映画、タイトルがね、「破戒」といいます。「はかい」っていったら、みんなにとったら壊す方の「破壊」のイメージだと思うんですけど、あの「破壊」っていう漢字じゃなくってね、「はかい」の「は」は一緒なんですよ。「破る」なんです。けど「かい」の方が「壊す」じゃなくって、「^{いまし}戒め」っていう漢字。分かるかな。ちょっと難しいかな。「戒め」っていう漢字わかる？「戒め」っていう漢字なんですよ。「戒めを破る」って書きます。これは島崎藤村っていう作家、小説家が書きました。今から100年以上前に島崎藤村っていう小説家が発表したんですね。100年以上前ですから、つまり水平社ができる前なんです。自ら立ちあがる人たちが出てくるさらに前の話なんです。

どういう内容かっていうと、^{うしまつ}丑松っていう主人公を舞台にするんですけど、その丑松が部落差別を受ける。受けるんですけど、お父さんから、「絶対に言うな、決して言うな、決して言うな」っていう戒めを受けるんです。「決して言うな。絶対に言うな。故

郷にも戻ってくるな」っていうことをお父さんから、幼いときから聞くわけです。その主人公丑松は成長していくなかで、お父さんの戒めをずっと守り続けていくんです。その守り続けていくことの苦しさを感じながら人生を歩んでいくんですけども、それに耐えられなくなる。耐えきれなくなる瞬間が出てくるんです。

丑松はね、小学校の先生なんです。まだ部落差別の厳しい時代ですから、子どもたちにはもちろん言ってない。けど周りの人がね、自分のことを、実はどうやら知っている。知っていくんです。知られまいと思ってるのに、周りが知っていく。これは言うものか、言うべきか、けどお父さんから「言うな」と言われた。ずっと悩み続けるんですけど、あるとき、クラスの小学生の子たちに、その戒めを破って言うんです。告げるんです。そういうストーリーです。よかったらぜひ見てほしいんですけど、残念ながら徳島でも、香川でも上映されてないんですね。四国で上映されているところ、たぶんないと思うんですよ。それを先週観てきたんです。観ていて胸が苦しくなります。苦しくなるんですけど、100年経ってどうかな今って、やっぱり思います。そんな苦しみが残ってないんだろうか。その苦しみを許さないような世の中に変えられてるんだろうか、どうだろう。そんなことを思いながら観てきました。この会は、そういうのを許さない人たちが集っている会だと思っています。そう思っていますけど、じゃあ^{おのれ}己にとってどうなのか。自分にとってどうなのかっていうことを、語り合えるような時間になったらと思います。

前の時計でいくと11時半ぐらいまで、二人で話をする時間をもらって。その後30分ほど感想を言ってもらったりとか、また意見を言ってもらったりとかいう時間を12時までとろうと思っています。そのときに、

今聞いてもらっているような内容、またシンジくんから話を聞かせてもらったような内容について感想とか意見を言ってみてください。言うつもりで聴きよってよ。手を挙げるつもりで聴きよってよ。

さてそれではシンジくん。彼との出会いは中学校1年生の時ですね。

シンジ 何年前でしょうか。今41歳なんです。

吉成 約30年前。彼は板野中学校卒業なんですけど、私は板野中学校に勤めていて、1年生で入ってきた当時、私は中2の担任でした。彼は中1だったわけです。その年に大きな授業をしたんですよ。大きな授業をしたんですよ。大きな授業って言っても意味分かりませんね。全校生徒で授業したんです。全校生徒で人権学習、同和教育の同和問題学習の授業をしたんです。うちのクラスが真ん中で授業をして、他の1年生、2年生、3年生みんなが観てくれていますけど、その中にいてくれた。そのときの授業も思い出深い授業だったんですけど、あれから3年間、人権学習、同和問題学習をずいぶんリーダーシップをとってやってくれたわけです。中学校3年生の時になって、この会がスタートしたんですね、第1回が。第1回のときの中3なんです。当時のことを言えばいろんな話がいっぱいできるんでしょうけども、今からそのことも含めて話をしてもらえますか。

シンジ シンジと言います。41歳になって、まだ若さバリバリでいこうかなと思ってるんですけど、中学生を目の前にしたらやっぱりちょっと老けたなって個人的に思っています。座って話させていただきます。先ほど中学校当時の話になりましたけども、同和問題、部落問題に気づいたのが、小学校後半やけど嘸み締めるようになったのは

中学校1年生の時でした。当時の板野中学校の全体学習ですね。自分は部落出身の立場なんだと。差別を受ける立場なんだということに気づきました。当時は人のことを考えると、道徳心というか、道徳の授業でもそんなに好きじゃなくて、どちらかといえば眠たくなるような授業、下向いて時間が経てばいいのになつていうような授業でした。中学校に上がって、板野中学校って小学校が3つぐらい、南とか東とか西とかが集まって一つの中学校に来るんですけど、その中で誰にも負けたくなかったっていうのが一つあって。道徳の授業でも、体育の走るのでも全部そうなんやけど、道徳の授業でも誰よりも手を挙げて発表するっていう、そういう、負けたくないとりあえず。そういう気持ちでいました。ボクと同年の友達がおるんですけど。また後で紹介しますが、その子がすごく自分の気持ちを発表する。手を挙げて発表する。ボクも負けたくなかったから、道徳の授業の教材に対して実際に思ってもないようなこと、かわいそうだと思いますとか。そういうような上辺だけの発表をしていたような記憶があります。全体学習っていう授業を、あれって年に何回ぐらいやってましたかね。



吉成 あれはね、全クラスやってましたから、6クラスあったら6回やってました。

シンジ 6回ぐらいやってたんですけども。

そこに対しても各クラスでいろんな話し合いを積み重ねて本番に向けてやっていくつていうような感じで。全体会の中で自分が手を挙げて発表しようとしたときに、みんなホンマのこと言よんのに自分だけなんでこんな上^{うわ}っ面^{つら}なこと言よんだろうなつていう自分に気づく瞬間がありました。そのときに涙が止まらなくて、その友達の前ですごく泣いたのを思い出します。そのときかな、部落問題の重さというか、友達を大事にすることの大切さとか、心底思つたつていうのが。自分のことを言いたくても言えんかつた自分もおつたし、言つたときに解放感もそうなんですけど、自分の思つてることを言うのつて、結構ハードル高かつたりするんですよ。それつて自分にしか分からんことなんでね。自分と向き合つて、そのときに手を挙げるのをやめた自分がおつたんですね。発表するのをやめたつていうか。それで悔し涙を流した。そこからその友達とも深く関わつていく。名前がね、今から何回も出てくつと思うんですけど、たつくんといいます。タクヤくん。今、鳴門金時をつくつてる。何人か話聞いたことあるかも分からんんですけど、農家をしているたつくんという友達。今もつながつてます。



あるときに、この話も知っている人は多いかとは思つんですけど、たつくんの家に、「あんたんとこ部落だろ」という電話がかかつてきたことがありました。当時たつく

んは一人で電話対応をしました。それでたつくんからボクのところに電話がかかつてきて、「こんな言われたんやけど」。これは大人一切関わつてないけんね。子どもだけのやりとりの話です。それは、自分たちだけで処理できる話でもないし、そのまま傷つくだけで終わつてしまいそうな気もするじゃないですか。だから、「親に話した方がいんじゃない？」つていうようなやりとりもあつたと。

そのことで何が言いたいかつていつたら、やっぱりしんだいときとか抱え込んだときに、誰かに言える関係性つていうのをもつべきやなつていうのを、すごく思つてます。今もそうです。そのときにたつくと、やっぱりたつくに負けたくなかつたから、嘘^{うそ}の手の発表の仕方とかを、最初言つたと思うんですけど、そういうことをしよつたんやけども、たつくんがホンマのことを言よんのに自分だけが上っ面なことを言つて、たつくに負けまいと思つてやつたことが嘘の自分だつた。本気で向き合いよる自分に、たつくに、自分も本気で向き合いたつていうやりとりの中で、そういう電話の事件があつたときに、たつくんがボクに電話かけてきてくれて、しんだいときに共有できて。やっぱり頑張らなアカンよなつていう部分で。それが20何年も前の話なんですけど、やっぱそのときでも部落差別つていうのは現にある。それが生々しくて。

ボクが社会人に上がったときも、やっぱりそういうのがありました。20年ぐらい前かな。10年後半ぐらい前か。やっぱり会社でも落書きをされたりね。「エタ非人はこれを触るな」とか。ボクたちが使う筆箱とかペンケースとかに書かれとつたりするわけですね。目の前にしてやっぱ腹立たしかつたし、中学校のときにしっかりと勉強したつもりだつたんで、そういうのはなしにせなアカンぞつていうか、そういう話をするわ

けですけど、やっぱり心底悔しかったし、なんで生まれた所だけで、なんで差別されなアカンのかっていうのはすごくありました。

部落問題を考える、同和問題を考えるっていうのは、素晴らしいこと、すごいことと思うんですけど、やっぱりね、裏返したら口惜しさがあるというか。いつもこういう場に来てグッと来るんやけど、今日は泣いたらアカン理由があったんですよ。前半にこういう話をするのはあんまり自分にとっても良くない。ここに立つことによって、先生に声かけられてね、この場に、いつものように部落問題に対して自分の思いを届けることをしてたんですけど、何か特別な日になるなって今日は思ってたんです。来る前からずっと。コロナ禍の中で、ひょっとしたら中止になるかな、どうかなって心配して先生に電話して。何時間するんですか、みたいな。あー、やっぱりするんじゃないかって思って。今の小学生とか中学生とかが同和問題とか部落問題に対してどういうふうな向き合い方しよんかなっていうのは、やっぱりこういうところに来んかったら分らへんし、どういう思いでおるんかなっていうんも、やっぱり正直聞かなんだら分からん部分もあるし。自分たちがやってきたことっていうのは、その当時、授業として全体学習とかでやってきた。それを見てきた人がいた。そこで生きてきたから言いやすい関係性も築けたし、勉強したとか、勉強させられたとかいうようなやりとりは結構あったんですけど、今って、当時ほど多いんかな、どうなんかな。ホンマに自分から好きで、この問題に対して怒りをもってやろうとせんかったら、関われんのちゃうんかなっていうような心配事がありました。でも当時ボクたちはやってきたから、今もずっと関わり続けてるんですね。たぶんボクは死ぬまで、一生関わり続ける問題やと思うし。そのなかで自分は強い、いや強く

はない。友達がおらんかったら何ともならんのやけど、誰かに伝えていかないかん。父親として。やっていかないかん部分もあるし。中途半端に部落差別っていうのを教えたくないというか、ちゃんとした知識をもってほしいというか。そういうなかで今すごくあがいてて。なかなかね、パネラーとしてホンマに言わないかんことが言えるのかなっていうのがあるんやけど。一回ちょっとね、先生ね、思いだけ言うてね、パスしましょうか。



吉成 いつも思うことがあって。私の前を今まで何十人、何百人という中学生が通り過ぎて行ったわけですよ。中学校の教員をしてますからね。もしかしたら何千人かもしれない。私の前を通り過ぎていったわけですよ。いつも思うのはね、いま幸せかかっていうことをいつも思う。だからみんなに対しても思うわけよ。他の学校の子やから、あまり深くは知らへんけど。けどな、やっぱりそうってしまうのよ。1年経っても、2年経っても、10年経っても、20年経っても、いま幸せなんかなって思ってしまうの。その裏返しとして、生きてきた人生の中で、またはこれから生きていく人生の中で、何か理不尽なことでいじめや差別を受けてしんどい思いしとるん違うんか、いけるんかかっていう思いがどうしてもあるのよな。だからその裏返しとして、いま幸せかいって、いつも、誰に対しても思ってしまう。絶対

そんな目には^あ遭ってほしくないと思うし、もしそういう目に遭ったとしても、それをたくましく乗り越えられるだけのことが今できてるかどうか分かんけど、乗り越えていってほしいなっていう思いや願いがあるのよな。



昨日、「高校生友の会」っていうのがあって。分かるかどうか、分かんかもしれないけど、高校生が集まる会。同じ中学校出身でな。同じ中学校出身同士で、高校生になって集まるような会があるんですよ。そういうのを「高校生友の会」っていうんですけど。その「高友」っていうところに、昨日の夜、いつも土曜日の夜にしてるので行ってたん。長年の仲間とずっと話をしてて、話をした相手は同い年なんですけど、同い年で子どもはもう大きいんです。もう二十歳も過ぎた子どもです。その人は我が子に、自分のルーツのこと、部落出身であるということを、子どもにどう伝えるかっていうことについて話をしたの。その人と話しをしたときに、「そら吉成さん、できるだけ早いほうがええと思うでよ」って言う。「あとになって知ったら、善くも悪くも、恨まれるでないけど」って、我が身をふり返りながら言ってくれるわけですよ。その家はね、小さいときから分かるような活動をしてるん。分かるような運動をしてるん。自分が部落出身であるってことを分かるような活動や運動をしてるん。家族の中でも

そういう話題が出るん。家族の中でいじめはアカンという話題が出るん。それでしんどい子がおったら、やっぱりそれは助けなアカンという話が出るん。自分がされよれへんかっていう話もそうなんやけど、自分がされよれへんかっていう話より以前に、やっぱりしんどい子がおったら助けなあかんぞ、それは当たり前の話ぞっていう話が出るのよな。そういう土台があったらな、いつの間にか、知らず知らずに、「あー、もしかしたらうちは部落かも分かんない、同和地区かも分かんないっていうのは、気づいていくようなもんやと思うでよ、吉成さん」っていう話になっていったんです。

どうですか、みなさん。みなさんの家庭にはそういうベースありますか。中学校の教員としてな、保護者の人と話をする機会がよくあるわけよ。お家の人とな。私は特別支援学級の担任してます。多くの特別支援学級に在籍する子どもの親御さんの多くの方が心配に思っていることっていうのがな、差別されんかどうかなんよ。いじめを受けんかどうかなんよ。毎年その質問を受けるんです。特別支援学級におるっていうことで先生いじめられませんか、差別されませんかっていう、その質問が毎年ある。つまり、親の思いからすると、うちの子はしんどい目に遭いはしないだろう、差別受けんだろう、いじめられんだろうかっていうことが、親として心配に思うから、そういう思いになって、そういうことを言ってしまうのよな。それは分かる。それは分かるんやけど、同時に、同時に、そんな思いしよる子がいたら助けなアカンで。それは当たり前の話やで。人としてそんなもんやっていうことが、プラスアルファとして言える家族かどうか、家庭かどうか。そういう食卓かどうかっていう。その部分で大きいような気がするのよ。どうです

か、みなさん。そんな家ですか。そういうベースがあったらな、そういうベースがあったら、差別が来てもどうってことない。家族みんなで守るで。もしなんかあっても任^{まか}せる。守るで。みんなで守るでって言えるような気がするのよ。ビクビクしないっていうか、怯^{おび}えないっていうか。されたらどうしよう、いじめられたらどうしよう、差別受けたらどうしようって怯えるだけじゃないっていうか。みんなで助けるっていう、そんな考え方の方向に変わっていけそうな気がするのよな。たぶん基本的にはシンジの家族っていうか家庭も、そういうところはベースとしてあるんでないかって気がするんやけど、どうかな。

シンジ そうやね、部落問題、同和問題に関わることで、自分を吐き出すことで、やっぱり家族の中でも、家の中でも、話し合ったりすることはあります。学校のことで、誰かが嫌な思いをしてそうやなと思ったときに、娘とかに、「あの子どんな感じ？」とか訊いたり。「あの子こんな」とか情報入れてくれたりとかね。

嬉しかった話もあるんやけど。それは娘のクラスの子で、「つくし学級」に行きよる子がおる。その子のお母さんが来てね、ボクの所に。娘がいつも、朝来たときは同じクラス。途中からこっちのクラス。戻ってこれるときだけこっちのクラス。その行き来をして。その子のお母さんが、「いつもこっちで遊ぼうって誘ってくれる」。その言葉にね、「おー、でかしたぞ」っていう気持ちにさせられるんですよ。でも、やって当たり前ではなくて、ホントに娘がその子のことが大切に、独りの子には絶対声かけに行くし、転校生がおったら絶対声かけに行くし、独りぼっちをつくったらいかんという教育はしよるつもりでおるんですよ。寂^{さび}しい思いはさせたらいかんっていうか。

人助けもそうやし。ただ妹に関しては攻撃的になったりはするんやけど、友達とか身のまわりの子たちにはすごく優しくて、むしろ自分は傷ついてもいいかなぐらいの気持ちでおるかもしれん。だからすごく繊細なんです。だから守ってやりたい。

ママも含めて、妹も含めて、4人でご飯食べながら、「学校でこういうことがあったよ」みたいなのを話し合ったりすることが、結構多いです。テレビ消して、今日あった出来事話し合おうみたいなことをしながらご飯食べたり。娘とかが主催するんですけどね、今日はこの話をしようとか言ってくれたり。だから、自分が部落出身であるということを伝えるのが、すごく怖いんです。なんかね、その部分に関してすごく怖かったんです。

いま小学校4年生なんです。下は小学校1年生かな。すごく怖くて。やっぱりね、繊細なだけにね、どない思うんだろうなとか、どない向き合うんだろうなとか、なんか自分の中で葛藤^{かつとう}がね、何年もありました。産まれてからも、どうなんだろうな、いつ言うんだろうなっていうのがすごくね、大切な子どもに対してね。でもそれは明らかに自分の中でこの子が差別されてしまうっていうことを描いてしまってるからダメなんですね。差別に対して向き合うことをさせんかったら、まず親としてダメなんやと思うんですよ。みんなもそうであって。友達が何か嫌なことがあったとか、嫌な思いをしたとか、それは何でもいい。ケンカでもいいし、恋愛でも何でもそうやけど、嫌な思いをした子がおったら、ちゃんとそこに向き合ってあげてアプローチできる。きちんとしたアプローチをしてあげるっていうのが、すごく大切なことなんやけど、子どもが差別されんようにしていくにはどうもっていったらいいのかな。これは親としてちゃんと伝えることは伝えないかんなって

いうんをすごく思いました。さっき先生がおっしゃってた、同級生の方と話してたときに、早い方がいいでよってという意見も、ボクと同じような境遇の問題であったりするのかなと思ったんですけど。



あのね、ボク決めたんです。伝えようって。ほんでね、今日連れてきてるんですね。小学校4年生ですけど、まだまだピチピチの、ピチピチの赤ちゃんですよ。でもね、すっごくこの子に助けられてね。絶対私のことは言わんといてよって今日言われて来てるんですけどね。だから今ちょっと目がよう合わせられんのですけどね。でも娘には謝りたいけどちょっと話したいなと思って、いろんな覚悟で来ました。

今日来る前に、まあ先生、ちょっと長くなるかも分らんですけど。あのね、小学校5年生、6年生になったら、歴史の授業とかしていく中で、部落問題とか部落差別、同和問題という言葉を目にすることがひょっとしたらないかも分らんけど、授業のなかでは、そういう歴史を、ちょっとふわふわした感じで教えるかな。中学校になったらそういった言葉も出てくるというんを耳にしたことがあって。もう学校ってなったら目が届かないんで、学校の先生も、担任の先生も、校長先生も、教頭先生も、みんな巻き込んでやれと思ってね、2日前に学校に行ってきたんですよ。そうしたらね、ビックリしました。先生の対応というか反

応というかね。まず夏休み個人懇談があって。個人懇談いつもボク行くんですけど、娘の個人懇談。娘には、パパ何言われるか分からんけん覚悟しといてよって言われつつ、ビクビクしながら行ったわけですけど。先生とテストのこととかいろんなことを、話をするのもさておいて。この日曜日実はこういう中学生集会っていうのがあってね、ボクちょっと行くんですよ。なぜかという、ボクは部落出身の人間です。そこに対してすごく誇りをもっとって、中学生のみんなにいろんな思いを伝えたい。そのなかで、娘にもちゃんと伝えていきたい。そしたら先生が返してくれました。実は、問題は全然違うんやけど、自分も親が身体障がい者で、先生自身も友達の身体障がい者を学校に呼んでクラスの前でみんなと話をすると。その誰が来たかっていうのを娘から聞きました。誰が来てこういう話してな、楽しかったんよってというような。すごい生き生きした先生でね。個人懇談がね、娘個人じゃなくて、ボク個人の面談になってしまっただけ。娘には申し訳ないと思うんですけど。終わった後、すごいスッキリした気持ちになりました。言って良かったなっていうか。言えなかったのに言って良かったなって。

校長先生に学校に電話して。校長先生いますかって。もうすぐしたら帰って来るんでっていうんで、行きました。校長室に行って、プライベートな話なんでって言ったときに先生ドア全部締めて、どしたんですか？みたいな。そんで話をしました。その校長先生にもビックリしました。中学生集会、人権を考える会、いじめを考える会、そこまでしか最初はよう言わなんだんです。部落問題とか、同和問題とか、よう言わなんだんですよ。言えんのかな。どない思われるんだろなって、今もやっぱり思ってしまってますよ。これ弱いんかな。なんか思

ってしまっ。校長先生にこういう言い方をするん。でも勇気振り絞って、実は部落出身でね、そしたら校長先生がね、下向いてね、また顔上げてこう言いましたよ。部落問題、同和問題、これが授業から遠ざかっていっきょんが悔しいてしゃあない。なんでこれをもっとベースにして話し合いができんののかな。校長をしながら悔しくて仕方がないって言うてくれました。校長先生の目が見えたんで、目を見て、ホンマですか、ホンマに言よんですか、みたいな感じで。ほんで自分のこと、今までのエピソードだったりとか言ったら、言った分先生が返してくれました。瀬戸中学校にね、新任のときいたって言うてたかな。瀬戸中学校で、こういう保護者の人に会いました。エピソードね。自身子どもにはこういう目に遭^あわしたくないみたいなね。そういう話を聞いたことがあるとか、そういうやりとりもあって。実際に30年近く前、全体学習、板野中学校の授業にも、娘の校長先生は見に行ってくれた。たぶん当時のボクたちが授業しよったぐらいなかなと思うんやけど。校長先生はボクたちが中学校のときのことを見てた。見てたんですよ。ほんでね、すごい話しやすい空気になってね。お互いがね、ボクと校長先生がね、まあ涙涙の会やね。そんでね、絶対に娘さんを守りますと。何が何でも守りますと。安心しましたボク。

それぐらい自分の中では、ここまでせんでええんちゃうんかなと思う部分でも、ここまでしてあげんかったらアカンの違うんかなって思ってしまうんですよ。ていうのは、中途半端な情報がいっぱい流れすぎて。中途半端な教育っていったらおかしいんやけど、ホンマに向き合うためには、ホンマにね、すごいしんどい思いすると思うんですよ。ほんで巻き込んであげるって言うたらおかしいんやけど、自分のためでもあ

るんですけどね。



そういうことをして、帰り際、教頭先生にもチラッと会って。どうしたんですかシンジさん。いや実はね。ここまで来たらね、ボクもう止まらんのですね。教頭にも言いましたよ。いや実はねって。教頭先生もビックリですよ。最近のこういう授業をしても、やっぱり先生自体が知らないことが多いから、生徒に伝えるのも中途半端に伝わってしまってるケースが多い。だからこういう教材を教員の中でも取りあげてやっていかなイカンていうことを言われて。すごい安心したというか、そういう思いの中でやってくれる、関わってくれてるっていうのが嬉しくて。娘の周りにはすごい思いのある先生がすごいいるなって思って。すごい安心しました。でもそれは聞かないと分からんし。そこまでするんは娘に、今日来ることの意味、中学生集会に連れて来ることの意味、中学生集会に来ることの意味、話をすることの意味っていうのを、ただ単に來ただけではたぶん何も伝わらないと思って。そこの段取りをして。

来る前も、今までずっと娘に言えんかったことがあって。学習会ってという言葉と言えんかったんですよ。学習会って分かります？今の子って分かるんですかね？

吉成 分らんの違うかな。分かる人おる？学習会って聞いてピンとくる人。うちの二人

ぐらいかな。説明ですが、学習会って、何か学習する会って、字の通り思いがちなんやけど、正式名称で言うたら、同和対象地区学習会っていうのが正式名称。同和対象地区学習会は、つまり同和対象地区の子、同和地区の子、部落の子が集まって、そこで勉強をする。教科の学習もするんやけども、人権の学習もする。立場の学習もする。活動もして、こんな夏休みの間なんかは、一泊研修とかもする。そこで仲間意識をつくっていく。すごく大事だった会。今はなくなっちゃったけど。すごく大事な場なんです。

シンジ その学習会っていう所に行きよってね、家でもよくするんです。その話を。でも学習会という言葉がずっと出てこんかって。実は娘とかにね、何か怖い話してだ、とか、そんな話があったときに、実は学習会に行った帰り道に怖い出来事に遭ったことがあって。心霊系のやつ。そういう話をするんですけど。その出だしが、塾みたいなどこ行きよって、その帰り道にな、こういう経験をしてなっていう言い方しかできんかって。学習会の「が」まできとんやけど、出てこんのよね。伝えても分らんのかなっていうんじゃないくて、学習会って言ったら、学習会の説明をして、したら、こういうことなんじゃってまた説明せなアカンっていうんが何かできんかったんですけど。

今日ね、来る前にね、ちょっと早くね、ボクが通ってた学習会にね、娘とちょっと行ってきました。現場にね。パパのルーツを知ってもらおうと思って。ひょっとしたら壊されとん違うかなと思いつつも行って。娘に、ここで実はお化け見てなって言っ。塾はこっちにあるんよって、お化けのところも見て、学習会の方に行って、学習会の会場に着いて降りて、ここでサッカ

ーしたりとか、小学校の先生が来てとか、そういうやりとりをしながら、ここで勉強しよったって。当時ボクと女の子が一人の二人だけでした。ボクたちの地区では。その子は、もう一人の女の子は小学校までは来よったけど、中学校は別の中学校に行っちゃいました。どういう意味があるか分からんけど。そういうことも話しつつ、ふわふわと、まあルーツだけを教えてね、こっちにまわってきました。内心今もどんな思いしてるんだろうなって思ったりするんですけど。



結局、娘に何が伝えたいか、みんなにも何が伝えたいかっていったら、抱えてる問題っていうんは、人それぞれ違うと思うんですよ。ボクは同和問題、部落差別っていうところでずっときたけれども、この学習をすることによってつながれた人ってすごく多いんですよ。ホンマにそう。先生しかり、いろんな先生もいるし、いろんなその当時の中学生集会のときの^{めんつ}面子だったり。いまだにね、フェイスブックとかインスタとか見たりしますよ。社会人になって飲み会で、飲み友達ができてね、その場だけなんやけどね、やっぱこういうところにつながった仲間ってね、ずっとつながってるんですよ。それがすごい誇りで。しんだいときに、もの言えるんですよ。相談にも乗れるし。しかも期限がなくて、十年たつとろうが二十年たつとろうが、成立して

しまうっていうんがね、すごいとこなんですよ。言いたいことが言えて、抱えとることもちゃんと言えて。ちゃんと向き合ってくれるっていうんが、この会の素晴らしさ。しんだいことを言うことの大切さっていうんを教えてくれるっていうんは、こういう場。ボクたちにとっては中学校の全体学習とかがそうだったし。



いまだに、最初出てきたたっくんとながつてるし、たっくんにも、中学生集会で話してくると。今日ね。実は娘にちょっと言ってみようかなみたいな。マジかシンジ、どうするんなそれ、みたいな。たっくんとこにも娘がいて。たっくんとこはまだ言っていない。言わないスタイルかも分かんし。でも娘の自慢はいっぱいしてくる。そういう感じのやりとりしてるんです。そういうときやっぱり、小学校行っているいろんな先生と話もしたし、たっくんに話もしたことで、すごい肩の荷がスッとしたっていうか、これからけど、もっと頑張っていかなアカン部分もあると思うんですけど。校長先生も、今日行きましようか、何時からですかって訊いてくれたし。来るつもりでおったんですけどね。果たして昼から来るのかどうなのか。たぶんアレかなと思うんですけど。それぐらいすごく大事にしている部落問題なんです。絶対あってはなんののですよ。あったらアカンことなんやけど、あったらアカンけんせんでええやん。するけん残る

んやんてなるかも分かんけど、そんなわけないって。なくしたことになるってしたらダメだと思うし。ボクたちはその差別に向かって闘い続けたいかんし、絶対負けたらいかんと思ってしまうし、なんでこのタイミングで、さっき先生がおっしゃった映画が上映されたんかっていうんがすごく気になる部分でもあるし。すごく観てみたいなとも思うし。もう一回みんながね、もう一回認識しなおさなアカン問題なんかなってすごく思ってるんですね。こういう感じですね。

吉成 映画、100年以上前に書いた小説をモチーフにした映画って言ったで。みんな和服なわけよ。明治時代のイメージやから、めっちゃ古めかしい時代の感じの映画なわけよ。そなん誰が好んで観に行くって、みんな思わん？北フジとかイオンシネマとか行ったことあるやろ。満員になっとるんて、あんまり見かけんことない？まあパラパラおるみたいな感じでしょ。先週行った「破戒」の映画な、満席立ち見。満席立ち見。どこからツアー組んで来てるんかなっていうくらいの団体客。だから関心のある人は関心あるのよ。古めかしい映画って思うかもしれんけど、ほなけど人権を求めて部落解放を求めて、関心もって観に来てる人っているのよ。そこの部分はすごく信じたいなって思う。だから徳島でも上映してほしいなっていう思いが、すごく強くあります。もちろん香川でもぜひ上映してほしいなっていう思いがあります。

それともう一つ。同和かるたって知っとる？同和かるたって知っとる人どれくらいおる？同和かるたっていうのがあるのよ。昔は学校で取り組んだりとか、板野郡で大会したりとか、鳴門市で大会したりとか、徳島市で大会したりとかしてたのよ。同和かるた取り大会。かるた取り大会です。今

でも各校で眠ってるはず。あると思います。眠ってるだけです。そのかるたの中の一句にな、「たちつてと」の、「と」。「と」の札な、こういう札なん。

「堂々と故郷の名が言える子に」

「堂々と故郷の名が言える子に」っていう札なん。それをもとにずっと学習会もしてきたし、同和教育もしてきたんよな。つまり、恥ずかしいことやないやんていう話。いじめられる方が悪いわけでないっていうのは聞いたことあると思うのよ。いじめる方が圧倒的に悪い。いじめられる側には何の非もない。差別も一緒にでな、差別される側は何の非もない。差別する側がおかしいんやて言ってきたと思う。もし仮にそうだとしたならば、堂々と故郷の名が言えていはずなんよ。いいはずなんよ。でもそれが言えない。なぜか。なぜか。そこにやっぱり、部落差別を感じるから。直接的な部落差別じゃなくても、どこか人を蔑^{さげす}んだり下に見たり、バカにしたり、そういう雰囲気を感じるから。教室に感じるから。世の中に感じるから。PTAの会でいろんな部があります。保健体育部とか、人権推進部とか、いろんな部があるわ。PTAでな。なんで人権推進部が人気なのか。楽だから。そういう雰囲気があるのよ。なんで人権作文書くのか。しんどいな、また今年も人権作文書かなアカンわ。書かされるわ。こんなようけ書かれへんわ。5枚も、4枚も、3枚も。書けても1枚ちょっとぐらいやわ。先生勘弁してくれんかな、これで。っていう雰囲気があるから、そんな雰囲気の中で部落のことなんて言える？言われへんやん、そなん。現実はその。理想は、「堂々と故郷の名が言える子に」。そのギャップ。そこを埋めていくことが大事なんやけど、それは当事者が頑張らないかんことではないはずなん。ここ大事。当事者が頑張ることではないはずなのよ。まわりよ、頑張らな

いかんのは。思わん？まわりが頑張れへんから、当事者がしんどい思いをするだけなんや。そう思わん？ていうのを、私たちは頑張っていかなアカンのでないかなと思うわけです。

ホンマに純粋に、ホントに純粋に、何が悪いって。差別する側が悪いって、いじめる側が悪いって、俺は何も悪いことないって、堂々と普通にしとったらいいな。もうその純粋なままでいいと思うな。ホントに。だからそのままでいいと思うな。それでぶち抜いていったぐらいでちょうどいいかな。ってボクは思う。



シンジ さっきも先生がおっしゃったようにね、PTAの話であるとかいう場面でもね、やっぱり重たい。重たい言ったらしんどくなるのは分かるんやけど、やっぱり言えん人はおるね。人権委員とかになったときに、人権委員はもうここの部と合体させて、文化と人権を混ぜてとかやったり、したり、されたりするし。それで、何か話しに行きよんでしょみたいな。話しに行ったりするって言ったりもしてたんで。何の話するん？て言われたら、まあいじめとか、て言ったりしたりね。いよいよ「同和問題とか」って言ったりしたこともありました。その人は信頼のおける人だったんですけど、その人に言われたのは、「あの授業はアレよな。眠たいよな」って言われて、おおお一つて。(笑)そういう部会もあったりするんで、そ

れ俺もうちょい頑張らないかんって、すごい思いますね。

吉成 けどな、真っ直ぐ行こう。真っ直ぐ。

シンジ 真っ直ぐね。しんだい話でもいいんやけどね。内心ワクワクしよんですよ。この人にどう向き合ったらいいのかなって。この先も関わり続けると思います。ホンマはその人にも言うたんですよ。中学生集会っていうんがあってボク話すんで、どうですかみたいな。ほの人も市内の中学校なんですけど、ほの中学校は来れんのですかみたいな。いずれ巻き込んでもいいかなみたいなことは思ってますけどね。どう伝えていくかにはよと思うんですけど。しばらく関わっていく人とは思うんで。

吉成 こんなになるじゃない、人間。調子のいいときと調子の悪いときと、デコボコで。いつもいつも調子のいいときばかりじゃないのよ、たぶん。かといって、ヘコんでるときばかりでもないんやけど、調子が良くなったりヘコんだり。私もここが、この(ヘコんでる)ときがあるのよ。まさに今がそうかもしれんのやけど、だけど、そのときにいろんな人に助けてもらうのよ。シンジに助けてもらったりとか、今日来てくれとる先生方に助けてもらったりとか、助けてもらうのよ。それでちょっと、上がるんよな。みんなもそういうときあることない？いいときばかり違うやろ。悪いときもあるやん。そういう悪いときに、友達がすごい頼りになったりするやん。だからやっぱ友達大事やっていう話やと思うんよ。ひとりでは生きていけない。ひとりでは生きていかれへんよ。だから友達大事にしようっていう話なんよな。終わる？一回。話聞こうか。手挙げる準備してよ。とりあえず二人の話はこれで終わりにするんで、手挙げて

もらってください。たぶんみんな手を挙げる準備をすると思うんで。以上で終わります。

司会者(d) どうもありがとうございました。

それでは残りの時間、感想や質問、意見交換を行っていきたいと思います。マイク係として、大麻中学校3年uさん、板野中学校2年hさん、板野中学校2年gさんの3人がフロアをまわります。

記録の関係上、発表者は団体名、学年、名前を言ってから発表してください。それでは、よろしくお願いします。



八万中学校3年 a 最初にちょっと関係ない話するんですけど、昨日吉成先生にアドバイスされたので。ホンマに関係ないんですけど。

私今朝、朝ご飯メチャちょっとだったんですよ。それでメチャお腹すいてるんですよ。お腹がちょっと鳴るかもしれんですよ。鳴ったらこの人ちょっとお腹がすいてるけど頑張るとんやなって思って、やさしい目で見てほしいんですよ。鳴ったときに、マイク通して聞いたらちょっと恥ずかしいじゃないですか。その状態で、えっ鳴ったん、みたいな目で見られたら傷つくんで、先に言っとくんで、もし聞こえても、聞こえてないふりしてやさしい目で見てほしいんです。ごめんなさい。ちょっと関係なかったんで。

本題に入るんですけど。さっきの吉成先生の、当事者じゃなくて周りが頑張るべきっていう話についてなんですけど。人権作文とかをうちの学校でももちろん全員書くんですけど、私は人権作文や文章書くのところが好きで、プラス人権について考えるのも楽しいと思ってるので、人権作文書く時間結構好きなんで、毎年ちょっと楽しみにしとったんですけど。私に友達がいる、友達が結構、人権作文書かんでいいん違うん、みたいな、面倒くさいなっていう子が結構いて。そういう空気になってきたら、人権作文の発表会をしても、そう思っている子がいるっていうのが分かってしまったら、意見発表もちょっとしづらいし。読むんもやりづらいし。



昨日帰りに、中学校一緒に1くんと吉成先生と話をして、ちょっと盛りあがりすぎて口が悪くなったところもあるんですけど。人権作文書くん面倒くさいとか言ってる人って、それって自分の人権いりませんって言よんと一緒にじゃないんていう話になったんです。そんなことは絶対ないと思うんですけど、人権作文を書くんを私は結構楽しみにしてはりきってる状態で、面倒くさいとかいらんとか言われたら傷ついて、そう思うところがあるんです。それって書くん面倒くさいとか考えるんが嫌とかいうのは、人のことは考えたくないけど、結構自分のことになったら人権とか言うじ

ゃないですか。例えば言い合いになったとして、自分が悪口言われたら言うとかあるじゃないですか。でも人権の学習するのは面倒くさいとかいう人がいて。あんまり話がまとまってないので分かりづらいと思うんですけど、当事者でなく周りが頑張るべきっていうのは、私も思って、そこを共感して。せめて自分が喧嘩^{けんか}したときとか人権とか言うんであったり、自分の人権を大切にしたいとか思ってるんだったら、他の人のことも同じように考えてほしいなっていう。友達とかに対して、そういう思いがあるっていうことを言いたくて。

友達に昨日塾で会ったんですけど、そのときに、人権学習とかこういう場ってすごい真面目な雰囲気があって、ちょっとやりづらいってこと言われたんですよ。確かに結構真面目な内容とは思いますが、楽しく。あくまで楽しく学習できたらいいなって、自分は思っていて。真面目にやるけど楽しく学習、その友達とかと一緒にしていけたらいいなって思いました。

松茂中学校2年 v さっき、書く人は自分の人権いらんとかいう意見言ってたんですけど。正直、ボクもそういう人権作文書くのがめっちゃ嫌いで。でも考えるのは好きなんです。人権がどうたらこうたらとか。話すのとか。むっちゃ好きなんですけど、文字を書くのが苦手というか嫌いで。なんでかなと思いつつ書いてるんですけど。クラスで発表するときとかあって、自分の書いた作文をみんなの前で読むっていうときがあるんですけど。そういうときに、結構こういうときに話したら、言いたいことがいっぱいありすぎて、何言ってるか時々分からなくなって。書いた文と全然違う内容を言ったり、そういうときがあるんですけど。そういう気持ちになるってことは、人権に対して分かってほしいとかって

いう気持ちがあるからそうなるんだと思うんですけど。人権について考えるのが面倒くさいから書くのが嫌とかという思いがある人も、少なからずいると思うんですよ。なので、作文を発表するときとかだけでも、ちゃんと人権学習してほしいなと思いました。終わります。



吉成 当時な、発表は得意というか、するけど、文章書くようになったらちょっとっていう子って、おったことない？

シンジ おったん違うんですか。いや、ボクもあまり得意な方じゃなかったかな。言う方はね、(そうそう)言う方が得意やったかな。

吉成 そんなもののような気がして。

シンジ そうやね。今の中学生の子の話を聞いて、個人的にですよ。個人的に思ったのは、書かなければいけないっていう状況のなかだったら面倒くさくなるんかも。例えば夏休みの宿題とかさ。そういうのがあったらテーマに沿っていかなアカンけん、自分の意図と違うことをせないかんていうんはしんどくは感じると思うんやけど。すごいフリーな状態で、作文ていうカテゴリの中で人権を当て込むとか。例えばテレビゲームを当て込むとかいうんだったら、結構楽なとは思うんですけど。やらないかん

ていうことで、自分も書きたいっていうことで、人がそなん面倒くさいよなっていうことは、自分にとってはどうでもいいことであって、自分が書きたいから、気持ちを書きたいから書くとか、言いたいから言うとか、ただそれだけのことであって、そこにつながってくれる子がいるからすごくありがたいわけであって。誰かのために何かをしてるわけではないから。そこはそんなに言い返すとかっていうのはすごいなって思うんやけど。書きたいから書く、言いたいから言う、だけのシンプルな括り^{くく}でいいんでなからうかって、個人的には思ったかな。でも書くんが好きっていうんはいいね。ボク教えてほしいな。どうやったらそう書きたくなるのか。



吉成 それも、脳の仕組みの一つかもしれんなって思ったりするのよな。書くのがある程度できる人と、書くのが苦手な人もおるのよ。脳の仕組みとしてよ、数学得意やけど国語はダメっていう子おるやん。スポーツは得意やけど勉強はちょっと苦手っていう子おるやん。脳の仕組みとしてその可能性はあるなって思ったりはする。だからといってイコール「人権なんて」みたいな見方は、一緒にするのはダメっていう話よな。そこは切り離して考えた方がいいんじゃないのって気がするな。作文は嫌やけど、人権のことはどうでもいいと思ってるわけではないのよ、ただ、ただ作文は苦手よ、

みたいなの。そこを一致してるところが問題な気がするな。感想とかないかな。

司会者(t) 何か感想がある人は手を挙げてください。

八万中学校3年 I 今日の講演会でしたっけ。シンジさんが来るって聞いてて。ボク、一応八万中学校にはいてるんですけど、中学校1年と2年のあいだ学校行けてなくて、初めてお会いできたんですよ、今日。^{うわさ}噂に聞くじゃないですけど、いろんな学習でシンジさんの名前聞いてて。部落とか、いろんなことについて伝えられてるっていうのを聞いてたんですよ。すごい勝手ながら尊敬してて。

今日の話聴いて、ホントちゃんと伝えられてる方だなと思って。あらためて。立場とか、話にあったように。お子さんとか学校の先生方とかに相談されたっていう話を聴いて。そこまでの勇気が出る発言というか行動って、なかなかできないと思うんですよ、ボクは。すごく難しいし、怖いし。今日お話くださって、すごい感動してるというか、奇跡的というか、この会に来て良かったなというか。1・2年前に行けてなかったのもあって、メチャ思ってるんですけど。ボク話聴いてて、吉成先生とか、会の説明だったりとか、かるたの話とかもしてくれて、ところどころ差別をなくそうっていう行動を広めようとした行動って、シンジさん以外いっぱいあったと思うんです。でも、やっぱりボクがこうやって会えたのも奇跡なようなものと同じで。かるただったり、会だったりとか、学習会だったりなくなってしまう理由も、いろいろあると思うけど、運じゃないですけど、何かが起こってしまったが故になってしまったわけで。なくなったわけで。そのなかでシンジさんと会えて話を聞けて、ただの感動

なんですけど、すごい嬉しいです。もうホントに尊敬してます。ありがとうございます。



シンジ ありがとうございます。いや、あのね、ボクなかなかね、そんなにそこまで家族の中でそんなに言われることもないので、すごく嬉しくて。裏返したら、そういう意見があったりするじゃないですか。みんな発表したりするじゃないですか。こういう活動があるじゃないですか。っていうことを、ボクは誰かに伝えるんですよ。こういう話をしてくれた。ボクに対しても返してくれた。っていうのをまた学校に戻って、校長先生のところとかに恐らく行くと思います。いろんな人にこういうつながりができてっていうんを言うんですよ。ボクも一馬力で来たわけじゃなくて、みんなからの声とか、みんながこういう思いをしよるっていうのを聞くことで成長させられよんで、それはすごくお互い様であって。ボクも尊敬されとるかも分からんし、そうやって言えるってことをすごい尊敬するし、すごくありがたいです。純粹に嬉しいし、一緒に頑張れよんっていうのをすごい思いました。ホンマにつながれる場なんで、こういう場を大事にしていきたいと思います。みなさん。

OG みなさんこんにちは。はじめましての人は、はじめまして。お久しぶりの人は、お久しぶりです。みなさん覚えていらっし

やいますか。本日諸事情により参加できなくて残念です。私以外にも仕事や家庭の事情で参加できない人、コロナなどの関係で自粛してる人、この場に來たくても來られない人がたくさんいらっしゃいます。そんな仲間たちを勝手に代表して、こういう手段をとらせていただきました。私は参加できなくても、熱い思いを届けたい。私の中学生集会での目標は、毎年参加したときには爪痕を残して帰ることです。私は今日参加できないため、先生にこのバトン^{たく}を託すことにしました。のはずなんですが、先生に、まあちょっと覗^{のぞ}いて行けよ、と言われ、なぜか会場におり、今日は参加してないという体^{てい}でこの作文を、なぜか本人が読むことになっております。でもこの先生に託したバトンがみなさんのも^もとに届けることができて私はとても嬉しいです。このバトンは落としたり、なくしたり、隠されたりすることなく、みんなに届けることが、今日先生に、この場に留められた私の使命だと思っています。

シンジさんお久しぶりです。覚えていらっしゃいますか？今日は私は、もっと堂々と前に出てシンジさんとお話ししたかったですけど、ちょっとそれが厳しい状態になってしまいましたので、手紙という形でこうして会話をさせていただいております。シンジさんの発表に対して中学生や参加者のみなさんがどんな言葉を発するのか、どんな意見をくれて、どんなやりとりをするのか、とても見たかったなって思っていますと書かれています。中学生のみなさん、今日という日に、この場所に來られたことを誇りに思ってください。來たくても來られなかった人、たくさんいらっしゃいます。発表できなくても構いません。それでも今日あったことを胸に刻んで、持ち帰って、今後の学校生活において生かしていってもらえたらなって思います。記憶に残る、思

い出に残る、そんな素敵な日にしてほしいと思っています。体はこの会場にはないはずだったけど来ていますが、來られなかった仲間とともに魂だけこの会場に飛ばしてきています。来年この会場で、みなさんに堂々と会えることを楽しみにしています。



松茂中学校 1 年 r シンジさん、はじめましてお会いします。ちょっと話すとき、緊張してしどろもどろになると思いますが、あたたかい目で見てください。

ボクもそもそも、部落って、言っちゃダメなのかもしれませんが、いったいどこがそうか分からないんですけど、部落の人たちはつらいいじめを受けてきたということが、ボクも違う意味で受けてきたんですけど、部落じゃなくて他の差別で。学校とかで人の前で言うのって、確かにつらいって思ったことはあります。作文に書いて先生に言ったことはありますが、小学校の時はみんなの前で言ったことは記憶は曖昧^{あいまい}ですがなかったと思います。でも中学校になって、ここに来る、人権を語り合う中学生交流集会があつて、ちゃんと本気で語れることとか学んで、中学校でいじめられたことが話せました。

話は変わるんですけど、作文のことなんですけど、中学校でも作文書くときに、面倒くさいって言う子おったんですけど、それでもちゃんと書いていて、発表するんですけど。作文じゃないんですけど、意見み

たいなのを書いてたんですけど、でもその人もちゃんと考えてるなって、意見を聞いて思ったんですよ。ボクも発表したんですけど、まだまだだなって自分でも思います。人権に対してまだ慣れてないっていうか、発表するときに勇気が出ないっていうか、そんな感じで。シンジさん弱いって言うてたじゃないですか。校長先生とかに言うてることが、まずすごいと思いましたよ。ボクだったらまず無理だと思います。まだ。でもそこを言えるのは、ホンマにすごいことだと思います。強いと思いますよ。だから自信をもってください。ありがとうございました。



シンジ 発表する自信がないって言うてましたけど、手挙げて言うてること自体がすごいと思うし、自分はまだまだとかいうのも意見の一つだと思うんよね、ボクは。何かを書くとか、書くのが嫌とか、さっきも言ったんだけど、手を挙げるとか、発表するとか、発表しないとか、できないとか、それは基本どうでも良くて、聴いたことによって、自分の中に入れて、それを理解して、自分の中で解いていくっていう作業が、すごく大事と思うんよね。聴いて、あの人すごいなって思うのも一つの気持ちやと思うし、あの人はいったい何だったけど、自分はこうやな。けどこの気持ちって誰にも言えなくなっていうんも自分で考えてることやから、まず考えるっていうことをしてるっていう

のがすごいと思う。自分はこれができんとか、発表するのが勇気いる、できん、ていうのもすごく大事な気持ちの表れと思うんでね。俺みたいに誰かに言うとかっていうのは、言うてる作業を肯定してるだけやから、みんなが考える気持ちっていうのは同じことと思うんよね。俺すごいとは思わんやけど、自分とは向き合ってるつもりでいるから、その辺はみんながやってるのと同じ作業。ただここが違うだけであって。だから自信もって、できないこともできんてちゃんとと言えるのも、俺はすごいことと思う。格好いいと思う。すごいね。ありがとうございました。頑張ります。



八万中学校3年 a 感想を言いたいんですけど、その前に。さっき私、結構きつい言い方を言ってしまった。人権いらんとか言うってしまったんですけど。あれは別に作文書くのが面倒くさいって言うてる子を攻撃したかったわけではなくて、それぐらい熱意をもっとるんで、他の子も、面倒くさいって言うてた友達とか、人権学習しんどいって言うよって、そこでやってくれたらっていう熱意を言いたかったただけなんで。言ったことで、自分ちょっと面倒くさいって思いついたみたいなことを思ってしまったらごめんなさい。ていうのを最初に言いたかったのと、次感想なんですけど。

私、シンジさんとはなちゃんが講演してくれてたときに、学校にいて話を伺ったん

ですけど。シンジさんが話してくれたときに、私発表できなくて。基本、1年生の時だったんですけど、1年の時は発表もほぼせんし、したとしても、何かこう言っとけばいいかな、みたいな感じで発表してて。そのときに発表できんかったことが、ちょっと心残り。今日改めてお話伺えて、すごく嬉しかったのと、自分は部落差別についてとか、水平社についてとか、あんまり深く知れてなくて。学習はしたんですけど、そこまでっていうか、あんまりちゃんと知れてないっていうのがあって。これからも今も、人の意見とかをちゃんと聞いたりして、自分の中に他の人の意見とかも取り入れていけたらいいなって思いました。



板野中学校 3年 d さっきシンジさんが学習会のことを塾って言ってたって話を聞いて、自分のことを人に打ち明けることができる人とできない人がいて。できる人っていうのは、苦しさとか悔しさを半分こできるんかもしれんけど、できん人っていうんは相談できないまま自分で抱え込んでしまうことも多いと思うんで、打ち明けられる勇氣は当たり前じゃないし、強いことと思うので、打ち明けられたときの相手の反応とかが、やっぱ大切なのかなと思いました。

司会者 ありがとうございます。まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで全体会午前の部を終了させていただきたいと

思います。最後に、もう一度拍手をお願いします。

さて、このあとは昼食・休憩となりますが、ここで実行委員会からのアピールを聞いてください。

板野中学校 3年 (d) 昼食を食べるときは黙って静かに食べましょう。

松茂中学校 2年 (w) 消毒を徹底するようにしてください。



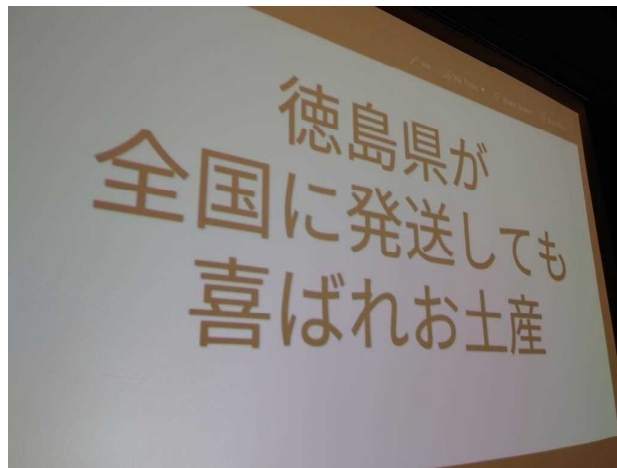
松茂中学校 2年 (x) マスクをつけよう。



松茂中学校 2年 (y) 昼食を食べ終わった後はマスクを着用するよう心がけてください。

八万中学校 3年 (I) 水分不足に気をつけてください。

大麻中学校 2年 (b) 食べる前には手指消毒を食べた後にはマスクを心がけよう。



八万中学校 3 年 (a) 消毒しか勝たんていう
気持ちでご飯を食べてください。

司会者 (t) なお、お弁当を注文された団体
は、お弁当の引換を行いますので、代表の
方は 1 階玄関、受付をした場所へお越しく
ださい。お弁当は、各学校ごとに、資料に
ある場所に分散して食べてください。

まだ名札をつけていない方は、名前がわ
からないので、このあと大会議室の入り口
外の机でつくり、必ずつけておいてくださ
い。

なお、午後の部の開始時刻は 1 時です。
遅れないように、元の場所に集合してくだ
さい。よろしくお願いします。それでは、
いったん解散してください。

